

連文

R E N B U N



Vol. **120**
2026.1



久留米連合文化会

茶道におきましては、年初の釜日を初釜と申しましてお祝いをいたします。「初釜」につきましては、会報98号にて茶道部より掲載がございました。久留米連文茶道部には、抹茶と煎茶があります。抹茶には、裏千家、江戸千家、表千家・白流、大日本茶道学会の四流があります。煎茶には、日本礼道小笠原流が、現在、一流のみでございます。今回は、お煎茶の新年の寿ぎ「献茶」を日本礼道小笠原流からお伝え申し上げます。

「献茶」には、故人を偲んでの仏式と今ここにあることを感謝して今年も無事であることを願うことの神式の二通ございます。当流では、年初に神式で献茶の儀を行います。

白木の献茶棚上に茶壺・貴人台に載せたお茶碗を飾り一組の急須と蓋置を上段に、その下に水注と巾筒を置きます。大袱紗を棚上の茶壺とお茶碗に掛けて備えます。



新年おめでとうございます 献茶—新年の寿ぎ

雅楽の「越天楽」の調べに合わせ

て銅鑼の音と共に始めます。

一对の献花、献菓の後、初点て。

棚横の花入れに、点前盆に懷紙に挟んでおいた櫛を挿します。炭点前では、香は、焚きません。

一組の急須をひとつは、湯冷ましにもうひとつを本来の急須として使いお茶を淹れます。



貴人台に載せたお茶碗を受け取り献茶致します。お茶碗の蓋を取り一同深々と総礼です。

後点の後、一同立ち上がって総礼して退出で終了です。



煎茶も全日本煎茶道同連盟に30流派近く加盟しております。そうでない流派を合わせると50流派にも上ります。他流では、

各流のお点前の仕方が多少異なりますが、今ここに居ることの感謝と今年一年の無事を祈る気持ちでの初点ては、いずれの流派も抹茶・煎茶問わず同じくするもの信じております。

昨今のご時世、高齢化もございませうが、座礼から立礼へと煎茶道・茶道のなかにもその流れがございます。

今回は、立礼席での献茶の様子をお知らせ致しました。

春の連文茶道部大茶会でも和室の他は、会議室にての立礼席(椅子席)でのおもてなしです。皆様のお運びを心よりお待ちしております。(茶道部・北川陽泉)



令和7年度

久留米市表彰

11月3日(文化の日)市の表彰式が行われました。連文会員で受賞された皆さんをご紹介します。

久留米市功労者〈文化振興〉

文化振興、社会福祉の増進など、市の振興発展に寄与した人が表彰されました。

短歌部 深野亨輔



この度は、文化振興とほど遠い私が久留米市功労者の称号を賜わり恐縮しております。

大津留敬先生に導いて戴いた「短歌の世界」で戸惑いながら駄作を重ねてきました。先生に「自然の移ろいを観察し、見つめて、見極めなさい」と教えられました。啖阿を切るがごとく一刀両断に、短歌を詠め



る境地へ早く至るように、日々努力を重ね精進していきます。今後ともどうぞ指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

映画演劇部 齋藤豊治



この度は身に余る賞をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。これもひとえに諸先生

方のご指導による賜物と存じます。今後地域のアート文化の振興に向けて焦らずに一步一步しっかりと歩んで参る所存です。



1989年に久留米に移り住んでからの時の流れは、私にはとても早く感じられて、あっという間に30年が過ぎ去ろうとしています。人と人が互いに生の声で接する機会が少なくなっている今、多くの皆さまに芸術文化の大切さ、楽しさをあらためて体感していただきたいと考えています。

微力ではございますが、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

令和7年度 詩の集い

「郷をみつめて」

―柳川の詩人 古賀忠昭と北原白秋―

令和7年度詩部会では、福岡県詩人会、久留米大学比較文化研究所日本・アジア比較文化研究部会、ふくおか県芸術祭と共催で講演会「水郷をみつめて―柳川の詩人 古賀忠昭と北原白秋」を2025年11月9日(日)14時から17時、久留米大学御井学舎の教室を会場に、実施した。



まず始めにうらいちからから、今回のテーマ設定のきっかけ

は、今年9月お亡くなりになった会員の山本源太さんから、生前に、古賀忠昭と北原白秋を同じ土俵に並べてみたかったという言葉聞いたことからであることが紹介された。

第一部は筑紫女学園大学教授の松下博文氏が、「陸の構図・沖端を歩く」と題して、沖の端の新旧の写真を示しながら、リアルな沖の端のその変貌ぶりを述べた。うらいちからは、遺作詩集から、忠昭は最後まで自分勝手なことごとくど言い立てるいわば御託詩とでもいうべき詩で押し通し、白秋は古代・神代の日本を憧憬したと、その違いを述べた。

第二部シンポジウム「泥土の詩人・古賀忠昭を読む」は県詩人会会員で、詩集『TAIWAN』で第50回H氏賞受賞詩人龍秀美氏と県詩人会代表の吉貝甚蔵氏であった。聴衆者は、市民約30名であった。(詩部・うらいちら)



洋画「ライノセラス」
豊福 きみ枝 (久留米市)



洋画「路地の片隅」
江口 登 (久留米市)



洋画「或る日の昼さがり」
馬場 節子 (久留米市)



日本画「ひととき」
高木 和子 (久留米市)



水墨画「FOREST」平井 舟風 (大木町)



写真「激射」森山 峰熙 (大木町)



工芸「窯変壺」
高木 重太 (久留米市)



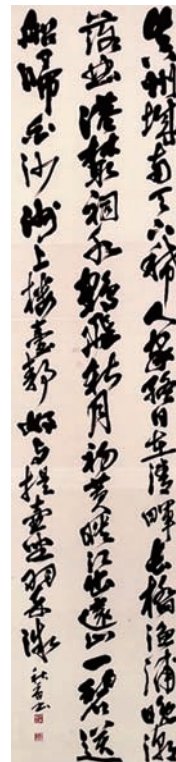
写真「群翔」高良 慶治 (久留米市)



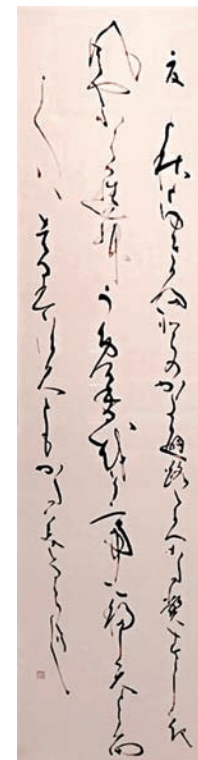
デザイン「願い」
吉崎 勇 (久留米市)



彫刻「小4ダンサー休憩中」
小森 博之 (小郡市)



書道(漢字)
「王漁洋詩」
原 秋香 (久留米市)



書道(かな)
「夏と秋と」
河村 美津子 (久留米市)

出品数は洋画39点、日本画6点
水墨画11点、彫刻4点、工芸10
点、書道56点、写真30点、デザ
イン8点。会員賞は12点です。

会員賞

第54回連文会員美術展

会場 久留米市美術館

会期	「1期」	「2期」	「3期」
10月8日(水)	10月15日(水)	10月22日(水)	
10月12日(日)	10月19日(日)	10月26日(日)	
彫刻・書道・デザイン	洋画・工芸	日本画・水墨画・写真	

第74回久留米市総合美術展

歴史ある公募美術展

令和7年10月8日(水)から10月26日(日)まで3期、久留米市美術館にて、久留米連合文化会の第54回会員美術展と併設開催いたしました。

令和7年は雨の中での搬入で大変でしたが、出品者数230名、出品点数277点の作品が事故もなく出品されました。最終日の表彰式には市長を始め、共催・後援の皆さま全員にご臨席いただきましたので、華やかで温かみのある表彰式になりました。また、展示会の入場者数が昨年度を上回って総数2298名と多くの方にご来場いただけましたので、美術展としての注目や関心が高まっており、大変うれしく思っております。



ギャラリートーク

10月19日(日)に洋画部門、10月26日(日)には日本画部門と写真部門が公募展の作品に関する講評を説明したり、手法などの解説をしました。

【久留米市総合美術展大賞】

日本画「そぞろう」酒井 貴輝 (久留米市)

【久留米市長賞】

洋画「焉(右)」吉田 勇輔 (久留米市) 【(兼) 来目賞】

水墨画「風景」野方 安子 (久留米市)

彫刻「人生の旅路」山田 照彦 (神埼市)

工芸「千手観音菩薩郡像Ⅱ」大藪 勉 (久留米市) 【(兼) 豊田賞】

書道「莊子語」井上 彩風 (久留米市)

写真「風とあそぶ」岩井 祐子 (福岡市)

デザイン「私なんて」立山 芽 (福岡市)

(久留米市総合美術展実行委員会)
副会長・久我 敏博()

第3回アートレクチャー事業

「アーティストのメモ帳」

今回3回目となるアートレクチャー事業「アーティストのメモ帳」(久留米連合文化会青年部委員会企画)を久留米市美術館多目的ホールにて実施しました。

一期目の彫刻部は、10月11日(土)に、「彫塑^{ちようそ}の制作を楽しもう2025 夏制作の実際」をテーマに、モニターを通して、原型制作から型どり、完成までをスライドで解説。その後に、簡易的な型押しから型どりのワークショップを開催しました。



二期目の工芸部は、10月18日(土)に「工芸の過去と今について」をテーマとし、大正末期に提唱された民藝運動とその後、の工芸界への影響についての講話。また、陶器の実作品を展示し鑑賞しました。



三期目の水墨画部は、10月25日(土)に「日本における水墨画について」をテーマに、中国で生まれた水墨画が、如何に日本へ伝わり、そこから派生した様々な形態についての講義。その後に、基本型である四君子(4週的植物)を描くデモンストレーションを実施しました。



以上のように、各部の特性を活かした内容となりました。

参加者からは、「大変勉強になった。」や「作品やその制作への見方が深くなった。」との評価を頂きました。

今回で3回目となるアートレクチャー事業を持ちまして、久留米市総合美術展、それに関わる久留米連合文化会美術部門の8部門からのレクチャーが一巡しました。

(久留米市総合美術展企画運営部)
青年部委員長・宇美 拓哉()

第77回 久留米茶道連合会

法要大茶会

令和7年11月9日(日)、今年も例年のように、梅林寺において開催されました。午前8時から位牌堂において開山和尚に献茶ご奉仕、その後本堂で物故者会員の施餓鬼法要を営みました。9時から御濃茶を臨川亭で裏千家、聴松軒で江戸千家、薄茶を大書院で表千家不白流、耕月亭で大日本茶道学会が担当して行いました。



令和7年度は、朝方からあいにくの雨模様でしたが、ここ数年では356名と多くのお客様に参加いただきました。

参加していただいた方には美味しいお茶を楽しんでいただけたのではないかと思っております。
(茶道部・西依宗直)

青木繁旧居

「お茶を楽しむ会」

(江戸千家久留米不白会)

令和7年10月26日(日)旧居保存会のご協力を得て、「お茶を楽しむ会」を開催致しました。秋晴れの気持ち良い日、親子連れの参加者も多く、145名の方にお越しいただきました。

お縁越しに爽やかな風が吹いてくる中、テーブルでの「お盆点前」で、参加者の皆さんにお抹茶とお菓子を楽しんでいただきました。
(茶道部・西依宗直)

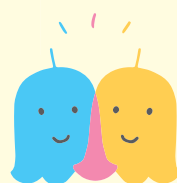


第13回 ドクターブンブン

「アートであそぼう!」

11月30日(日)13回目

の開催となったドクターブンブンが久留米シティプラザ全館を使用して開催されました。



連文では数年前から「アートであそぼう!」として、次代を担う子どもたちに幅広い芸術体験の場を提供しています。令和7年度は日程の都合で美術部門が不参加となりましたが、3つの部が参加しました。

参加の各部からのコメントです。

【日本舞踊部】

初めての参加でしたが、結構希望者が集まり、手伝ってくれた子ども達も楽しかったとの事でした。日本舞踊の輪が広がれば、嬉しいです!

【映画演劇部】

舞台アート工房・劇列車

『劇人形を作ってみよう!』という工作系ワークショップで参加しました。六角堂広場のブースが会場。広場を行き交う親子の皆さんと、オープンに出会うことができました。なかには懐かしい再会もあったりして。お世話いただいた皆様、ありがとうございました。

【文化交流部 ゴスペルクワイア】

子ども向けのゴスペルワークショップを開催しました。今回は高校生ボランティアの手伝いもあり、1時間弱で3曲が仕上がりました。

ワークショップ後には大人のゴスペルグループの方々に混じりストリートライブ。見物の小学生達も飛び入りで加わり、にぎやかなライブとなりました。

(広報委員・今村好典)



第44回 連文会 華道展

令和7年12月5日(金)～8日(月)、久留米BJガーデン(久留米岩田屋8階特設スペース)に於きまして、前期後期合わせて72席、連文華道部の九つの流派が一同に会しました。



この時期の開催は初めてでしたが、この季節ならではの花材が集まり、長年研鑽を積んできた会員たちによる様々な流儀の作品が会場を彩りました。穏やかな天候にも恵まれ、お陰様で約一〇〇〇名の観客の皆様にお越しいただきました。お客様も会員たちと交流しながら、季節を感じ、華やかでなごやかなひとときを共有されたのではないのでしょうか。

次年度は10月に、文化センター内の石橋文化会館小ホールにて開催予定です。連文会員の皆様の交流の場となりますと幸いです。
(華道部・大石理真)

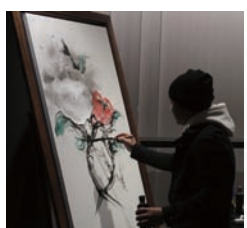
文化交流部展

Beyond the Borders vol.4

文化交流部は昨年12月20日(土)、久留米シティプラザ・久留米座にて第4回 Beyond the Borders (文化の垣根を超えて)を開催しました。

まずは年末の多忙な時期にも関わらず足をお運びいただいたお客様には心より感謝申し上げます。

今回は開場と同時にロビーにおきまし



て音楽(田中冬馬さん)と書画(野田弘樹さん)のコラボレーションを開催したり、また会員外の参加では南筑高校軽音楽部とダンス部、そして「平田達彦」さん(福岡)と「べすば」さん(熊本)の二組をお招きし新しい風を吹き込んで頂きました。

会員の出演は、ゴスペル・ジャズ・ポップスといつもの顔ぶれではありましたが、ダンス部の皆さんとのコラボレーションもあり華やかなものになったと自負しております。また来年度も新たな試みを企画しておりますので是非ご観覧いただければ幸いです。

(文化交流部・丸山幸二)

第71回 桃青忌俳句大会

11月25日(火)、晴れの吟行、時雨の句会

の桃青忌(時雨忌の別称)俳句大会を行いました。

高良山の中腹にある、松尾芭蕉を祭神とした桃青霊神社(桃青は芭蕉の別号)を吟行しました。神社への坂も地元の方のおかげで整備されて、かなり登りやすくなりました。句会には御井校区コミュニティセンターにて。

新しい参加者も二名あり十二名でした。

71回という大会の重みを感じつつ続ける事の大切さを語り合いました。

選者三名にて特選句(◎)、佳作句は次の通りです。

大力 妙子 選

◎ 世も変はり人も代はれど芭蕉の忌

野口 桂子

我が町は俳句の聖地翁の日

平岡 清志

俳人の和を広げたき翁の忌

吉田 いずみ

宮崎 みゆき 選

◎ 俳人の和を広げたき翁の忌

吉田 いずみ

これからも重ねてゆかん芭蕉の忌

野口 桂子

会小さくとも芭蕉忌を怠らず

平岡 清志

吉田 いずみ 選

◎ 先達の崇敬継ぎて桃青忌

橘 無明

我が町は俳句の聖地翁の日

平岡 清志

地に還る落葉踏みつつ祠まで

大坪 久美枝

(俳句部・大力 妙子)



◎日誌◎報告 2025年(令和7年) 8月～12月 report

フジタバレエリサイタル「コッペリア」 8/31(日)・久留米シティプラザ ザ・グランドホール

久留米市芸術奨励賞受賞記念

恒松沙季・ピアノリサイタル 8/31(日)・久留米シティプラザ Cボックス

ムジカ・ソナレ・アンサンブル第27回演奏会 9/28(日)・石橋文化ホール

第74回久留米市総合美術展 10/8(水)～10/26(日)・久留米市美術館 1階

第54回会員美術展 10/8(水)～10/26(日)・久留米市美術館 1階

ムジカ耳納30周年記念コンサート 10/9(木)・えーるピア久留米 視聴覚ホール

芸術奨励賞受賞記念

木村清吾と仲間たち「クラシカルコンサート」 10/13(祝)・えーるピア久留米 視聴覚ホール

上下水道フェア茶会(裏千家淡交会) 10/18(土)・南部浄化センター

青木繁旧居「お茶を楽しむ会」(江戸千家久留米不白会) 10/26(日)・青木繁旧居

0歳からの親子ふれあいコンサート 10/29(水)・石橋文化会館 小ホール

第77回久留米茶道連合会法要大茶会 11/9(日)・梅林寺

詩の集い 11/9(日)・久留米大学御井学舎 教室

第76回西部示現会展 11/11(火)～11/16(日)・久留米市美術館 1階

ヒュッゲな時間(垣外波瑠香・吉本暢子グループ展) 11/21(金)～11/25(火)・HARUギャラリー

第71回桃青忌俳句大会 11/25(火)・御井校区コミュニティセンター

川島翔園個展(書道) 11/27(木)～11/30(日)・八女市岩戸山歴史文化交流館

第13回ドクターブブンアートであそぼう! 11/30(日)・久留米シティプラザ

第44回会員華道展 12/5(金)～12/8(月)・久留米ピージェイガーデン

第24回ジュニア青木繁展(公募・搬入) 12/15(月)～12/19(金)・久留米連合文化会事務局

文化交流部展

Beyond the Border Vol.4 12/20(土)・久留米シティプラザ 久留米座

◎芸術散策◎行事のお知らせ 2026年(令和8年) 1月～7月 information

第53回久留米謡曲連盟謡曲大会 1/25(日)・久留米シティプラザ 久留米座

第24回ジュニア青木繁展(展示) 1/26(月)～2/1(日)・えーるピア久留米 2F

第73号久留米文学発刊 3/1(日)

池坊三猪支部創立85周年記念花展 3/6(金)～3/9(月)・久留米シティプラザ 展示室

お茶を楽しむ会(江戸千家久留米不白会) 3/15(日)・青木繁旧居

第73回けしけし祭 3/20(金・祝)・かぶと山

華道家元池坊久留米支部花展 3/28(土)～3/29(日)・久留米シティプラザ 展示室

第44回水墨画心象会展 3/31(火)～4/5(日)・久留米市一番街多目的ギャラリー

第72回連文茶道部大茶会 4/19(日)・久留米シティプラザ 和室・大大会議室

第52回書道部書作家展 5/20(水)～5/24(日)・久留米市美術館 1階

令和8年度久留米連合文化会総会 5/30(土)・ホテルマリタール創世 久留米

第12回水墨画部展 6/2(火)～6/7(日)・久留米市一番街多目的ギャラリー

第19回工芸部作品展 6/16(火)～6/21(日)・久留米市一番街多目的ギャラリー

第60回仲縄忌俳句大会 6/27(土)・南薫校区コミュニティセンター

仲縄忌供茶呈茶(裏千家淡交会久留米支部) 6/27(土)・遍照院

デザイン部展 7/14(火)～7/20(祝)・久留米市一番街多目的ギャラリー

計報

(令和7年8月～12月)

謹んでご冥福をお祈り致します。

山本源太さん (詩部) 令和7年9月7月



次号121号の原稿募集しています。6月原稿締め切り。8月発行予定です。会報に掲載したい活動の報告と予定を部でまとめ、部長が事務へお知らせください。広報委員会で話し合い、部門と部の活動を優先し次に流派や個人の活動を掲載します。

